

山口県やかりの女性を紹介

# 人財彩時記

梅光学院大学学長

樋口 紀子 さん

## 樋口 紀子さん プロフィール

梅光学院大学学長

- 1958年 福岡県北九州市生まれ
- 1982年 梅光学院大学（現梅光学院大学）英米文学科卒業
- 1993年 同大学大学院英米文学専攻修士課程修了
- 2002年 梅光学院大学宗教主任就任（10年間）
- 2005年 同大学教授、学校法人梅光学院の理事・評議員就任
- 2012年 梅光学院大学で初の卒業生かつ女性として学長に就任。  
学長を務める傍ら、単立折尾クリスチャンチャーチの牧師も務める。

進路を決められた  
きっかけは何でしたか。

地元のミッシヨン高校に進み、梅光学院大学に進学しました。その時は、牧師になるとは思っていませんでしたが、卒業後、1年間アメリカに留学する機会があり、クリスチャンになったことがきっかけです。

また、そこでは教会を通じての奉仕活動も体験しました。隣国のメキシコに入ると、景色が一変します。「国が変わるとこんなにも変わってしまうのか。」大きなショックを受けました。

奉仕活動を行っていく内に、自分ができることは何かを示されたと思います。神が私に進むべき道、やるべきことを教えてくれたと感じたのです。

その後、もっとキリスト教について知りたいと思い、7年かけてプロテスタントの牧師の資格を取得しました。地元の教会の牧師を務めながら、大学の教授となり、海外での奉仕活動を続けてきました。2012年4月に学長となったのですが、自身が一番驚いています。

現在、どのような  
活動をしていらっしゃいますか。

学長として最初に行ったのは、学生募集の強化です。地方の大学共通の悩みですが、少子化に伴う受験者の減少で学生の確保が難しい状況です。外部コンサルタントなどの力も借り、定員にほぼ手が届くところまで押し上げました。

私は、年に数回東南アジアを中心にボランティア活動を続けてきましたが、学長となってからは頻繁に行けなくなりました。しかし、語学研修や留学の機会を増やしたり、そこにボランティア活動を盛り込んだりと、私の経験を大学のプログラムにいかすことが可能になりました。

個人の活動としては、地元の高齢者を支える団体に、立ち上げから関わってきました。認知症のケア活動にも参加しています。カンボジア、タイなどに学生を連れて行って、一緒に活動もしています。学生たちは、貧しくても笑顔の子どもたちに励まされたり、力強く生きる姿から学んだりします。違う文化環境を経験することは、自己を客観的に見ることもつながり、その経験から学生が大きく成長するのを見ると、

私もうれしいですね。

これからの抱負を  
聞かせてください。

現在、教育は教えることから、学生の主体的な学びを支援することにシフトしてきています。大学はその状況に対応して行かなくてはなりません。今の学生は何を必要としているのか、何を学びたいのか、常に学生の目線で考えることが大事だと思っています。その上で、社会人基礎力もあり、なおかつキリスト教精神を身につけた、人に寄り添える学生をいかに育てていくかが今後の課題だと思っています。

「光の子として歩みなさい」（聖書）  
梅光学院大学のスクールモットーそのままに、歩んでおられます。宗教家としての優しいまなざしと、教育者あるいは学者としての厳しさが同居する姿は、多くの学生に焼き付いているのではないのでしょうか。

（取材：原田茂・藤田）